

平成30年度第2回「ほっかいどう未来チャレンジ応援会議スポーツ部会」
議事概要

- 1 日 時 平成30年12月18日(火) 10:00～
- 2 場 所 道庁総合政策部会議室
- 3 出席者 別添出席者一覧のとおり
- 4 議事概要
 - ・事務局から資料に基づき説明。
- 5 質疑等

資料5

(助成対象分野の拡大について)

○事務局：丹尾参事

- ・アンケートで特に意見が無かったので改正に盛り込んでいないが、ご意見はあるか。
→ 意見なし

(対象分野の考え方について)

○事務局：丹尾参事

- ・スポーツコースの支援対象者は、「オリンピック・パラリンピック大会など世界の舞台で活躍する道内選手を輩出するため、世界を見据え、高度な知識を持つ『指導者』として活躍を目指す者」としているが、今年度、オリ・パラの種目では無く、競技でもない基本的な運動能力向上を目指す方からの応募があったところ。事務局として、対象事業として受け付けるか自体迷ったところであるが、広い意味で世界の舞台で活躍できるアスリート育成に資するものとして受付たところ。

今後、対象範囲をどのように解釈するか皆さんの御意見を伺いたい。

○道環境生活部スポーツ振興課：石丸課長

- ・要項作成時の検討経過では、対象者についてはアスリートを目指す者では無く指導者に限定するという意見があったが、オリパラを目指す選手を育成する指導者というところは既定路線で議論されていたようである。学校教育などは議論が行われていなかったため、皆さんの御意見も伺いたい。

○北海道教育大学岩見沢校：山本教授

- ・アスリートの世界のシンボリックな大会がオリンピック・パラリンピックであり、枕詞的なもので、その次の、「世界の舞台で活躍できる道内選手を輩出するため」、というところが支援対象者としての本質的なところ。バルシューレの例であれば、幼少期の多様な運動経験、知的能力、空間認知能力などをなるべく広げようというもの。最終的に専門化していくが、そのための基礎になる。

そういう意味で、全体構造を見据えた上で、理論的に物事を捉えられる指導者、道内のアスリートの養成に影響を与えることができる指導者を育てるということであれば、要項が現状のままであっても対象としてもよいのではないか。

○事務局：丹尾参事

- ・ 現行の要項で、対象を幅広く解釈することとしたい。

(短期留学への支援について)

○事務局：丹尾参事

- ・ 期間が短いと学びが薄くなる一方、社会人の応募者は、退職、休職の必要がある場合もあり、短期留学の支援もあった方が良いという意見もあったが、皆様のご意見を伺いたい。

○北海道教育大学札幌校：中島准教授

- ・ 単に海外経験を積むということであれば、大学の夏休みなどを利用して2か月間の留学も考えられるが、成果を求めるとなると難しい。

※その他意見なし

(所得制限について)

○事務局：丹尾参事

- ・ アンケートでは賛否が分かれているところなので、継続課題としたいが、ご意見はあるか。
→ 意見なし

(支援内容・支援人数について)

○事務局：丹尾参事

- ・ 支援内容・支援人数ともに、現状のままで良いとの意見を多数アンケートで頂いているので、現状維持でよろしいか。
→ 意見なし

(合格者の選定方法)

○事務局：丹尾参事

- ・ 選定方法の変更について、意見はあるか。
→ 意見なし

○北海道教育大学岩見沢校：山本教授

- ・ 意欲は並ぶが専門性に差が生じる場合、対応できるのか？

○事務局：丹尾参事

- ・ 各コース専門分野は分かれるが、合格ラインとなる点数を定め各審査委員には絶対評価で評価を行っていただいていると考えており、対応可能と考えている。

※その他意見なし。